

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学科名 : 言語聴覚士学科

分野	科目名	単位	時間
専門分野	聴覚検査Ⅰ	1	30
	聴覚検査Ⅱ	1	15
	器質性構音障害	1	30
	機能性構音障害	1	30
	言語発達障害治療学	2	60
	言語発達障害Ⅱ	1	30
	言語発達障害Ⅲ	2	60

	合計
総単位数(単位)	9
時間数(時間)	255

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	聴覚検査 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	三年次	学期及び曜時限	前期 月曜1限他	教室名	404教室 他
担 当 教 員	糸賀 亜美	実務経験と その関連資格	医療福祉センターに勤務し、小児への言語聴覚療法の実務経験がある。		

《授業科目における学習内容》

聴覚機能検査について、その理論を学び各種検査方法を習得する。

《成績評価の方法と基準》

定期試験(100点)で評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

- 【教科書①】「聴覚検査の実際」南山堂
 【教科書②】「標準言語聴覚障害学 聴覚障害 第2版」医学書院

《授業外における学習方法》

講義内容を復習しノートにまとめる。検査においては、習熟するため自主的に練習する。

《履修に当たっての留意点》

聴覚検査の演習では、教材作成室で実施する。オーディオメーターを準備する。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	聞こえの仕組みと解剖学的部位を理解し説明できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。確認テストを行うので準備する。
	各コマにおける授業予定	聴覚の発生・解剖・生理①(教科書 p2~10)		
第2回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	外耳から中耳の聞こえの仕組みと解剖学的部位を理解し説明できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。確認テストを行うので準備する。
	各コマにおける授業予定	聴覚の発生・解剖・生理①(教科書 p2~10)		
第3回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	内耳から中枢の聞こえの仕組みと解剖学的部位を理解し説明できる。聴覚伝導路が説明できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。確認テストを行うので準備する。
	各コマにおける授業予定	聴覚の発生・解剖・生理①(教科書 p2~10)		
第4回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	聴覚の病理について理解でき、説明できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。確認テストを行うので準備する。
	各コマにおける授業予定	聴覚の病理①		
第5回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	聴覚の病理について理解でき、説明できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。確認テストを行うので準備する。
	各コマにおける授業予定	聴覚の病理②		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	聴覚検査の種類と大まかな特徴について理解でき、説明できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。確認テストを行うので準備する。
		各コマにおける授業予定	聴覚検査の種類と特徴		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	オーディオメーターの規格、取り扱いについて説明できる。聴力検査の際の留意点について説明できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
		各コマにおける授業予定	標準純音聴力検査①(教科書 p40～62)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	気導聴力検査の実施方法を理解し実施できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
		各コマにおける授業予定	標準純音聴力検査②(教科書 p40～62)		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	骨導聴力検査の実施方法を理解し実施できる。陰影聴取について説明できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
		各コマにおける授業予定	標準純音聴力検査③(教科書 p40～62)		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	検査を全体通して円滑に実施できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
		各コマにおける授業予定	標準純音聴力検査④(教科書 p40～62)		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自記オーディオメトリーの実施方法を理解し実施できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
		各コマにおける授業予定	自記オーディオメトリー①(教科書P63～69)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自記オーディオメトリーの実施方法を理解し実施できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
		各コマにおける授業予定	自記オーディオメトリー②(教科書P63～69)		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	語音聴力検査の実施方法を理解し実施できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
		各コマにおける授業予定	語音聴力検査①(教科書P77～92)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	語音聴力検査の実施方法を理解し実施できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
		各コマにおける授業予定	語音聴力検査②(教科書P77～92)		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	語音聴力検査の実施方法を理解し実施できる。	教科書	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
		各コマにおける授業予定	語音聴力検査③(教科書P77～92)		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	聴覚検査Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	三年次	学期及び曜時限	前期 金曜1限他	教室名	404教室 他
担 当 教 員	糸賀 亜美	実務経験と その関連資格	医療福祉センターに勤務し、小児への言語聴覚療法の実務経験がある。		

《授業科目における学習内容》

他覚的聴覚検査について、その理論を学び各種検査・訓練方法を習得する。

《成績評価の方法と基準》

定期試験(100点)で評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

【教科書】「聴覚検査の実際」南山堂

《授業外における学習方法》

講義内容を復習しノートにまとめる。検査においては、習熟するため自主的に練習する。

《履修に当たっての留意点》

聴覚検査の演習では、教材作成室で実施する。オーディオメーターを準備する。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	他覚的聴覚検査の概要が理解でき、説明できる。 ティンパノメリーの理論について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	講義内容を復習しノートにまとめる。
	各コマにおける授業予定	他覚的聴覚検査の概要 インピーダンスオージオメトリー①(ティンパノメリー) 教科書P93～103		
第2回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	ティンパノメリーの実施方法を理解し実施できる。	教科書 プリント	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
	各コマにおける授業予定	インピーダンスオージオメトリー②(ティンパノメリー) 教科書P93～103		
第3回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	ティンパノメリーの実施方法を理解し実施できる。	教科書 プリント	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
	各コマにおける授業予定	インピーダンスオージオメトリー③(ティンパノメリー) 教科書P93～103		
第4回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	アブミ骨筋反射検査の理論について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
	各コマにおける授業予定	インピーダンスオージオメトリー①(アブミ骨筋反射検査) 教科書P93～103		
第5回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	アブミ骨筋反射検査の実施方法を理解し実施できる。	教科書 プリント	講義内容を復習しノートにまとめる。検査に習熟するため自主的に練習する。
	各コマにおける授業予定	インピーダンスオージオメトリー②(アブミ骨筋反射検査) 教科書P93～103		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	耳音響放射の理論、実施方法について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	講義内容を復習しノートにまとめる。
		各コマにおける授業予定	耳音響放射(教科書P132~138)		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	聴性誘発反応の種類、理論について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	講義内容を復習しノートにまとめる。
		各コマにおける授業予定	聴性誘発反応(教科書P119~131)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	講義内容を復習し、過去問題を解き、解説できる。	教科書 プリント	講義内容を復習しノートにまとめる。
		各コマにおける授業予定	まとめ、国家試験過去問題、解説		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	器質性構音障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	二年次		学期及び曜時限	後期 金曜1限 他	教室名	405教室
担 当 教 員	糸賀 亜美 他	実務経験と その関連資格	医療福祉センターに勤務し、小児への言語聴覚療法の実務経験がある。			

《授業科目における学習内容》

器質性構音障害の解剖学、種類とその障害について専門的な知識を習得する。また、手術法、検査法、および治療・訓練についての知識と技術を習得する。出生時から成人までの治療の流れやチームアプローチについても学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

筆記試験(100点)で評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

【教科書】「言語聴覚療法 シリーズ8 器質性構音障害」 建帛社

《授業外における学習方法》

講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。

《履修に当たっての留意点》

器質性構音障害については主に口唇・口蓋裂と舌癌を重点的に学ぶ。積極的な取り組みを望む。

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	器質性構音障害の定義と疾患について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、 配布プリントを見ながら、 ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	器質性構音障害の定義と疾患		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	口唇口蓋裂の発生、疫学、口唇口蓋裂の分類について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、 配布プリントを見ながら、 ノートにまとめ理解する。 ・確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口唇口蓋裂の発生、疫学、口唇口蓋裂の分類		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	口唇口蓋裂の手術について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、 配布プリントを見ながら、 ノートにまとめ理解する。 ・確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口唇口蓋裂の手術		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	鼻咽腔閉鎖機能と評価について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、 配布プリントを見ながら、 ノートにまとめ理解する。 ・確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	鼻咽腔閉鎖機能と評価		
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	口蓋裂言語検査について理解でき、実践できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、 配布プリントを見ながら、 ノートにまとめ理解する。 ・確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口蓋裂言語検査		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	口唇口蓋裂の言語治療について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口唇口蓋裂の言語治療①		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	口唇口蓋裂の言語治療について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口唇口蓋裂の言語治療②		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	口唇口蓋裂の言語治療について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口唇口蓋裂の言語治療③		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部がんによる器質的構音障害について理解し、説明できる。	教科書、配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口腔がんの特性と治療		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部がんによる器質的構音障害について理解し、説明できる。	教科書、配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口腔がんの特性と治療		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部の主要な筋肉について述べるができる	教科書、配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口腔がんの特性と治療		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	再建腫手術の方式について述べるができる	教科書、配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口腔がんのリハビリテーション		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔がんのリハビリテーションについて述べるができる	教科書、配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口腔がんのリハビリテーション		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔がんのリハビリテーションについて述べるができる	教科書、配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口腔がんのリハビリテーション		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔がんのリハビリテーションについて述べるができる	教科書、配布資料	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリントの実施
		各コマにおける授業予定	口腔がんのリハビリテーション		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	機能性構音障害	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	二年次	学期及び曜時限	前期 金曜4限 他	教室名	405教室
担当教員	糸賀 亜美	実務経験とその関連資格	医療福祉センターに勤務し、小児への言語聴覚療法の実務経験がある。		

《授業科目における学習内容》

機能性構音障害の種類と内容、検査法、および治療・訓練の理念とその方法について習得する。機能性構音障害について専門的な知識・技術を身につける。臨床現場において、子どもが意欲的に訓練に取り組めるような教材を構想し、グループで協力して教材を作成し、最終的には、訓練の目的、教材の使い方、子どもに配慮すべき点などを、発表してもらいます。

《成績評価の方法と基準》

定期試験(50点)、レポート(50点)で評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

【教科書】「構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル」 金原出版

《授業外における学習方法》

各回の講義後に復習を行うことで疑問点を明らかにする。その疑問点については調べ学習や講師への質問等により疑問のまま残さない努力をしてください。また、小テストを活用して基本的知識の修得に努めること。

《履修に当たっての留意点》

2学年後期に履修する臨床評価実習に必要な基本的知識の獲得は必須である。加えて、言語聴覚士として必要な態度についても学ぶ。グループ活動では学びに貢献できるよう積極的に参加すること。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 1学年で学んだ構音のメカニズムおよび機能性構音障害の定義が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	構音のメカニズム、機能性構音障害の定義 構音発達(教科書p1~)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 誤り音の種類と異常構音とは何かが説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	誤り音の分類、異常構音(教科書p6~)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 各異常構音の特徴が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	声門破裂音 (教科書p9~)、咽頭摩擦音 (教科書p10~)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 各異常構音の特徴が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	咽頭破裂音 (教科書p11~)、口蓋化構音 (教科書p12~)		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 各異常構音の特徴が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	側音化構音 (教科書p14~)、鼻咽腔構音 (教科書p16~)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床で用いられる評価方法の概要と実施方法について説明し実施できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	構音検査①（教科書p19～）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	臨床で用いられる評価方法の概要と実施方法について説明し実施できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	構音検査②（教科書p19～）		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	系統的構音訓練の実施方法を説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	構音訓練、系統的構音訓練の方法（教科書p34～）		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	各異常構音の訓練方法が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	具体的な構音訓練方法①（教科書p42～）		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	各異常構音の訓練方法が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	具体的な構音訓練方法②（教科書p57～）		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	各異常構音の訓練方法が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	具体的な構音訓練方法③（教科書p72～）		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	各異常構音の訓練方法が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	具体的な構音訓練方法④（教科書p86～）		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	各異常構音の訓練プログラムを立案し教材が作成できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	訓練プログラムの立案と訓練の実施①		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	各異常構音の訓練プログラムを立案し教材が作成できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	訓練プログラムの立案と訓練の実施②		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	立案したプログラムについてグループ内で協力して発表できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テスト行い理解度を確認する。
		各コマにおける授業予定	訓練プログラムの立案と訓練の実施③ グループ発表		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	言語発達障害治療学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	二年次		学期及び曜時限	通年 月3限・水2限 他	教室名	405教室
担当教員	糸賀 亜美	実務経験とその関連資格	医療福祉センターに勤務し、小児への言語聴覚療法の実務経験がある。			
《授業科目における学習内容》						
発達およびその障害についての基礎知識を応用し、評価、訓練について学ぶ。症例を通して、デイリーレポート、症例報告書の書き方を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100点)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【教科書】「言語聴覚療法臨床マニュアル」 協同医書出版社 【参考図書】「言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社						
《授業外における学習方法》						
講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。						
《履修に当たっての留意点》						
言語発達障害の評価と診断、治療については、臨床実習、臨床現場で必須である。積極的な取り組みを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	絵画語彙発達検査(PVT-R)について理解し、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。	
		各コマにおける授業予定	絵画語彙発達検査(PVT-R)①			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	絵画語彙発達検査(PVT-R)の実施方法について理解し、実施できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。	
		各コマにおける授業予定	絵画語彙発達検査(PVT-R)②			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	質問-応答関係検査について理解し、実施できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。	
		各コマにおける授業予定	質問-応答関係検査			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	LCスケールについて理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。	
		各コマにおける授業予定	LCスケール①			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	LCスケールの実施方法について理解でき、実施できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。	
		各コマにおける授業予定	LCスケール②			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	LCスケールの実施方法について理解でき、実施できる。結果の読み取り、解釈ができる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	LCスケール③		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の概要について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査①		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の実施方法について理解でき、実施できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査②		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の実施方法について理解でき、実施できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査③		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の実施方法について理解でき、実施できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査④		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の実施方法について理解でき、実施できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査⑤		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の実施方法について理解でき、実施できる。結果の読み取り、解釈ができる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査⑥		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新版K式発達検査2001の概要について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	新版K式発達検査2001①		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新版K式発達検査2001の実施方法について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	新版K式発達検査2001②		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新版K式発達検査2001の実施方法について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	新版K式発達検査2001③		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新版K式発達検査2001の実施方法について理解でき、説明できる。結果の読み取り、解釈ができる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	新版K式発達検査2001④		
第17回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新版K式発達検査2001の実施方法について理解でき、説明できる。結果の読み取り、解釈ができる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	新版K式発達検査2001⑤		
第18回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ITPA言語学習能力診断検査の概要が理解でき、結果の読み取り、解釈ができる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	ITPA言語学習能力診断検査		
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	K ABC-IIの実施方法について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	心理・教育アセスメントバッテリー 日本版 K ABC-II ①		
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	K ABC-IIの実施方法について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	心理・教育アセスメントバッテリー 日本版 K ABC-II ②		
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	K ABC-IIの実施方法について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	心理・教育アセスメントバッテリー 日本版 K ABC-II ③		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	K ABC-IIの結果の読み取り、解釈ができる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	心理・教育アセスメントバッテリー 日本版 K ABC-II ④		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	動画を見て、所見と考察が記載できる。	教科書 プリント	観察ポイントをまとめる
		各コマにおける授業予定	デイリーレポートの書き方		
第24回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例報告書の書き方に沿ってレポートを記載する方法を理解でき、説明できる。	教科書 プリント	参考文献、引用文献を探しておく。
		各コマにおける授業予定	症例報告書の書き方①		
第25回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例報告書を作成できる。	教科書 プリント	参考文献、引用文献を探しておく。
		各コマにおける授業予定	症例報告書の書き方②		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第26回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例報告書を作成できる。	教科書 プリント	参考文献、引用文献を探しておく。
		各コマにおける授業予定	症例報告書の書き方③		
第27回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例検討(評価、考察、訓練プログラム立案)ができる。	教科書 プリント	参考文献、引用文献を探しておく。
		各コマにおける授業予定	症例検討①		
第28回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例検討(評価、考察、訓練プログラム立案)ができる。	教科書 プリント	参考文献、引用文献を探しておく。
		各コマにおける授業予定	症例検討②		
第29回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例検討(評価、考察、訓練プログラム立案)ができる。	教科書 プリント	参考文献、引用文献を探しておく。
		各コマにおける授業予定	症例検討③		
第30回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例検討(評価、考察、訓練プログラム立案)ができる。	教科書 プリント	参考文献、引用文献を探しておく。
		各コマにおける授業予定	症例検討④		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	言語発達障害Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	二年次		学期及び曜時限	前期 金曜4限 他	教室名	405教室
担当教員	糸賀 亜美	実務経験とその関連資格	医療福祉センターに勤務し、小児への言語聴覚療法の実務経験がある。			
《授業科目における学習内容》						
言語発達障害の基礎的概念を学ぶ。脳性麻痺・重複障害について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100点)によって評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【教科書】「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」医学書院						
《授業外における学習方法》						
講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。						
《履修に当たっての留意点》						
第14・15回は4階工学実習室で実施する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	DVDを見て脳性麻痺の方の様子、発話、生活について理解でき、気付きや感想を発表できる。脳性麻痺の定義を理解でき、説明できる。		教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施 	
	各コマにおける授業予定	脳性麻痺の定義				
第2回	授業を通じての到達目標	運動の正常発達について理解でき、説明できる。		教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施 	
	各コマにおける授業予定	運動の正常発達①				
第3回	授業を通じての到達目標	運動の正常発達について理解でき、説明できる。		教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施 	
	各コマにおける授業予定	運動の正常発達②				
第4回	授業を通じての到達目標	脳性麻痺児の運動障害について理解でき、グループで実践できる。		教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施 	
	各コマにおける授業予定	脳性麻痺児の運動障害				
第5回	授業を通じての到達目標	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害について理解でき、説明できる。		教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施 	
	各コマにおける授業予定	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害①				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害③		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害に対する評価について①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施
		各コマにおける授業予定	脳性麻痺に伴う言語聴覚障害に対する評価について②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	動画を見て、所見と考察を記載できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施
		各コマにおける授業予定	記録の書き方		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	年齢・発達に応じた評価・アプローチについて理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施
		各コマにおける授業予定	年齢・発達に応じた評価・アプローチ①		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	年齢・発達に応じた評価・アプローチについて理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施
		各コマにおける授業予定	年齢・発達に応じた評価・アプローチ②		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	年齢・発達に応じた評価・アプローチについて理解でき、説明できる。	教科書 プリント	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。 確認プリント実施
		各コマにおける授業予定	年齢・発達に応じた評価・アプローチ③		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	拡大代替コミュニケーションに用いるスイッチを作成でき、活用方法を検討できる。	スイッチ作成キット 作成手順プリント	スイッチの作成手順を読んでおく
		各コマにおける授業予定	AAC スイッチ作成		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	拡大代替コミュニケーションに用いるスイッチを作成でき、活用方法を検討できる。	スイッチ作成キット 作成手順プリント	スイッチの作成手順を読んでおく
		各コマにおける授業予定	AAC スイッチ作成		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	言語発達障害Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	二年次	学期及び曜時限	通年 木曜2限 他	教室名	405教室
担当教員	糸賀 亜美	実務経験とその関連資格	医療福祉センターに勤務し、小児への言語聴覚療法の実務経験がある。		

《授業科目における学習内容》

言語発達障害の基礎的概念を学ぶ。自閉症スペクトラムおよび注意欠陥多動症、限局性学習障害の障害特性を詳しく学ぶ。その上で、情報や行動観察から所見と考察の記載方法について学び、適切な評価と解釈ができ、発達段階と障害特性、個別特性に応じた具体的な支援方略を立案することが出来るようになる。

《成績評価の方法と基準》

筆記試験(100点)で評価する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

【教科書】「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」医学書院
 【参考図書】「言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版」医歯薬出版株式会社

《授業外における学習方法》

講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。

《履修に当たっての留意点》

ASD、ADHD、SLI、LDについての知識は臨床実習、臨床現場では必須である。積極的な取り組みを望む。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム障害の定義と歴史について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
	各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラム障害の定義と歴史		
第2回	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム障害の3つ組について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
	各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラム障害の3つ組		
第3回	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム障害の評価・診断について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
	各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラムの評価・診断①		
第4回	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラムの評価・診断について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
	各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラムの評価・診断②		
第5回	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラムのコミュニケーション支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
	各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラム障害のコミュニケーション支援①		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラム障害のコミュニケーション支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラム障害のコミュニケーション支援②		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉症スペクトラムのコミュニケーション支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	自閉症スペクトラムのコミュニケーション支援③		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	TEACCHプログラム障害について理解し、教材作成、実践ができる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	TEACCHプログラム障害の実践①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	TEACCHプログラム障害について理解し、教材作成、実践ができる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	TEACCHプログラム障害の実践②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	TEACCHプログラム障害について理解し、教材作成、実践ができる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	TEACCHプログラム障害の実践③		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の定義と歴史について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	注意欠如・多動性障害の定義と歴史		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の行動特性について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	注意欠如・多動性障害の行動特性		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の行動特性の支援と薬物療法について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	注意欠如・多動性障害の行動特性の支援と薬物療法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の診断と評価について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	注意欠如・多動性障害の診断と評価①		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	注意欠如・多動性障害の診断と評価について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	注意欠如多動症の診断と評価②		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習障害の定義と特徴について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	学習障害の定義と特徴		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達性ディスレクシアの特徴について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	発達性ディスレクシアの特徴		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達性ディスレクシアの評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	発達性ディスレクシアの評価と支援①		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達性ディスレクシアの評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	発達性ディスレクシアの評価と支援②		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達性ディスレクシアの評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	発達性ディスレクシアの評価と支援③		
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達性ディスレクシアの評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	発達性ディスレクシアの評価と支援④		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達性ディスレクシアの評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	発達性ディスレクシアの評価と支援⑤		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障害の定義と特徴について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	特異的言語発達障害の定義と特徴		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障害の評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	特異的言語発達障害の評価と支援①		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障害の評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	特異的言語発達障害の評価と支援②		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障害の評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	特異的言語発達障害の評価と支援③		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障害の評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	特異的言語発達障害の評価と支援④		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障害の評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	特異的言語発達障害の評価と支援⑤		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異的言語発達障害の評価と支援について理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	特異的言語発達障害の評価と支援⑤		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	学習障害、特異的言語発達障害について重要なポイントを理解でき、説明できる。	教科書 プリント	・講義の内容について、配布プリントを見ながら、ノートにまとめ理解する。
		各コマにおける授業予定	まとめ		